
彼岸

コーキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼岸

【著者名】

コーキ

【ノード】

N1861B

【あらすじ】

幼い指先が描いた彼岸花。虚無の淵を漂う私の精神は幸せな日々に帰る。

B4判程に切り抜いたダンボール板の4辺にそれぞれ、3センチ幅くらいのこれもダンボール製の縁を切り貼りして額縁風に仕上げた工作物の真中に真っ赤な彼岸花。その横には「前向きに生きよう。」なんて意味ありげな言葉が添えてあって。

私はある日自室の壁にそんなものが飾つてあることに気が付いた。みすぼらしくせに洒落た工作で、4辺を取り巻く縁には実物の枯葉が数枚、糊で貼り付けてある。主役の真っ赤な彼岸花は画用紙に描かれたものを実際に大雑把に切り抜いて額縁の中央に糊で貼り付けてある。

「前向きに生きよう。」

真っ赤な彼岸花の細長い花弁からすっと一筋に伸びる茎の儂げなそれでいて潔く、凛とした直立の姿勢が私の目には痛かった。

ずっと気が付かなかつた。この粗末な額縁はいつ頃から飾つてあつたのだろうか？今日はたまたま、本当に久しぶりでこの部屋の掃除をしたのだ。

私がこの十数年積もりに積もつた埃や毛玉と格闘している間中、真っ赤な彼岸花はずっと壁から私を見下ろしていたのだ。そして私は作業が一段落付いたところでタバコに火を点してぼんやりと虚空を見つめ様、この鮮やかな色彩を発見した。

情けない。自分の部屋の情景さえも満足に見てはいなかつたのだ、私は。わかりやすく目に映るものさえ見えていないのに、形を持たず触れることさえできないものが見えていたはずもない。

「」の部屋の壁に飾つてあるのだ。だから、私がこの手で飾つたに

違ひないのだ。私はこの彼岸花の絵を受け取つて、壁に画鋲で留めたのだ。

全く覚えていない。

十代後半の私は前向きに生きていた。何事にも単純に反応していれば良かつたし、周囲のほとんどがそんなだつたから疑問を感じる余地すらなかつた。

涙が流れてしまうのだ。ハナが垂れてしまうのだ。噛みしめた唇に歯が食い込んで血が滴り落ちるのだ。ふるふると全身が震えて、真つ赤な彼岸花の茎は私の血と涙を吸いながら、なお赤く儂げで潔く。

「私がおまえ位の年の頃は……」それがどうした！　彼には彼の十代があつたのだ、私の頃より遙かに複雑な十代があつたのだ！　それを、それを私は、それを私は！

彼はどれ程に無邪気な笑顔と共にこの絵を私にくれたのだろうか？　口惜しい。2度と見られぬその笑顔をすら、覚えていない私。私のいい加減な記憶はうすらぼんやりと顔がなく、ただ彼岸花の脇に4年2組と書いてあるからきっと、小学4年の彼が描いた真つ赤な彼岸花。

もう一度、いつそその根になつて、私は彼を抱きしめたい。

育みたい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1861b/>

彼岸

2010年12月11日02時38分発行